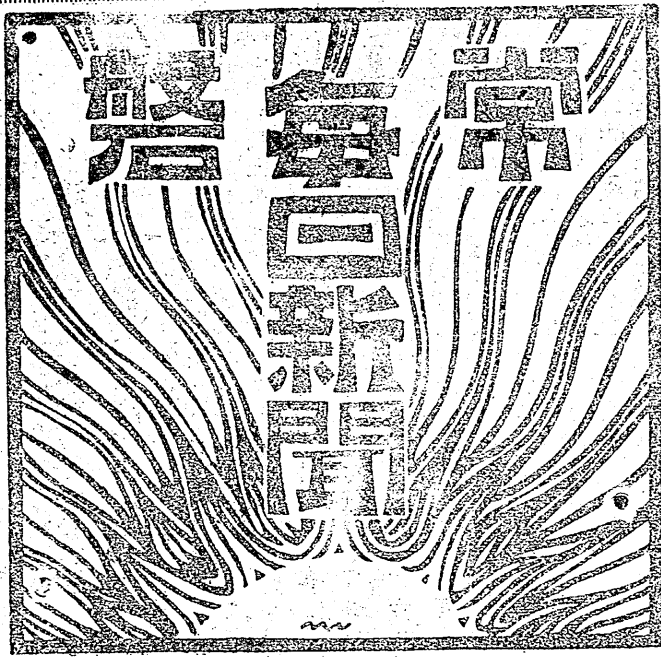


發行編輯人 川崎文治
印刷所 常盤每日新聞社
福島縣石城郡平町長橋町卅五番地



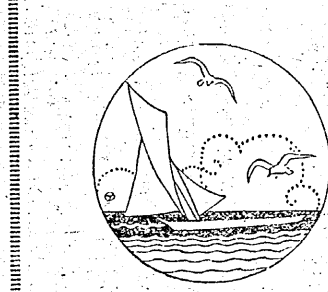
定額 五錢
一ヶ月 五錢
三ヶ月 一圓二角
半年 二圓二角
一年 四圓
廣告 五錢
電話 三三九番
印刷所 常盤每日新聞社

刊夕日十二月十

寄書
俳句は遊戯文字に非ず (中) 豊齋

◎世上飲酒の趣味を解する人多し、されど文藝を解する人は少ない、默慾を解する人は多い、されど真正の戀を解する人は少ない、酒は口より入りて肉を痺痺せしむるものなれども其一醉陶然たる趣味は精神的にして、肉体的ではない、戀は肉情に基くものなれども戀を離れ世間を離れたる戀は神聖ならざる迄も精神的な

り、肉体的ではない、文藝に至つては毫も肉体的と關係せず、精神的である、而して三者共に其美にうたる、瞬時は即ち人が浮世に於て神に接する時である、◎利慾や名聲や人をして浮世に活動せしめる名利は、實に人をむちうつの鐵鞭である、名利の鐵鞭にむちうたれつゝある間を苦しくもあり、又樂しくもあれど一朝名利に見離されたらたゞ苦痛があるばかりである、よじや見離されるに至らぬ迄も人の慾を限りなくして現實は限りがある、名利は畢竟安心立命を得る所以でない、即ち去つて宗教の門



を叩くに至るのである、けれども儒教の感化を受け科擧に啓發せられたる現代人には宗教は余りに幼稚である、さらば哲學の門を叩かんか哲學はたゞ智識を満足せんとする假りの方便であつて修養の出来るでもないれば人格が高まるでもない (續く)

逸獨 高級眼鏡 (メニスカス) 問「メニスレ」

澤山揃ひました

平町一丁目(電話二一七番) **仙台屋呉服店**

青沼醫院 醫學士青沼淡夫 電話四〇三番

平町城山(舊城跡)三の丸

内科 小兒科 皮膚科 花柳病科

意隨院入

今冬の流行品 實用的で經濟的

澤山揃ひました

平町一丁目(電話二一七番) **仙台屋呉服店**

丸登株式会社 川添房二郎

平町田町 電話三三三番

各種流行新柄入荷

流行新柄の秋物及び冬物防寒品 澤山揃ひました

平町一丁目(電話二一七番) **仙台屋呉服店**

東邦民衆保險 火災

罹災の時に保費金を廿時間以内に而も寛大に親切に支拂ふ事を以て湧くが如き大歓迎を受けつゝある

代理店 草野源三郎 平町四丁目 電話一七五番

第二回寄附金芳名録

金壹百圓	古鍛冶町	山崎清三殿
金壹百圓	五丁目	諸橋守殿
金拾五圓	同	阿部唯次郎殿
金拾五圓	四丁目	岡田長太郎殿
金拾五圓	南町	金子角藏殿
金拾五圓	南町	酒井國三殿
小計金二百七十五圓也		
累計金六百五十圓也		

(本廣告を以つて領收書に代ふ) 大瀧發電所 許可反對同盟會

吉田眼科醫院 新らたに菓子工場を經營して皆様方の御家庭にお安く提供する事となりました何卒最負の程を

久野製菓販賣部 福島縣平町一丁目 電話一五〇番 工場 平町長橋町六十一番地

株式賣買中値 電話に金融致し

銘柄	拂込	時價
磐城銀行	五〇〇	五三〇
平銀行	五〇〇	六八〇
磐城銀行	一一〇	一〇五
磐城銀行	五〇〇	四二〇
磐城銀行	三〇〇	二八〇
田村實業	一一五	一七五
四倉銀行	二〇〇	二五〇
農工銀行	一一〇	一九〇
同新	五〇〇	五五〇
同新	一一五	一六〇
同新	一一五	九八
同新	五〇〇	四二〇
同新	一一五	一九五
同新	一一五	七五
只見川電	一一五	一三五
植田水電	一一五	一三五
好間水電	一一五	一三五
磐城製菓	二〇〇	二五〇
平信託	一一五	一三五
磐城勸業	一一五	一三五
植田物産	三〇〇	二六〇
平製氷	二五〇	一八〇
好間軌道	五〇〇	三〇〇
入山新	三三〇	一七〇
小田炭礦	二五〇	一五〇
磐城炭礦	五〇〇	四一〇
同新	二二五	一八〇
同新	五〇〇	六二五
同新	三三〇	四二〇
平運送	一一五	八〇

横濱市にて

水道 發電計畫を否決

大瀧發電所許可の如き 實例全國に絶無

全國の水道に大瀧發電所計劃の如く取水入口の下水に放水する發電所が果して許可された實例があるかどうかを確かむべく伊坂町長が香野水道課長と共に九州小倉市に開催された全國水道協議會に左記諮問案

平水道視察

町長其他が

山形縣天童町長、警察署長、郵便局長其他數名は平水道狀況視察の爲本日來平した

年來の曆

二日續きの 休みが多い 勤め人には 大當りの年

取水上の一大脅威 であるが列席者の總べてが異口同音に答へて呉れました、ただ全國中に於て一つ横濱市には平町と殆んど同様な計畫を立てた電氣會社があつたようですが是れは縣からの諮問に對し横濱市會が満場一致實害あるものとして

不同意

の決議を上申した爲の發電計畫が遂に許可されるに至らずに終つた由でしたので私は實際に當局者から聴取せんと町長より一足先きに歸途に着

常磐片々

大瀧發電所に對する許可の如き實例全國に無しと、縣當局以つて如何となす
夫れとも新しいレコードを作つた氣か
新しいレコードも物によりきりだ

三萬町民に泥水を飲ませるレコードなんか如何に新しくも御免を蒙り度いネ
過ちを改むるにハバカル事勿れ、何んとか速やかに後

多い、又月飾が二回あり、三月九日は夜明けで八月四日は午後七時二十七分より七分五厘まで蝕ける

求むる人と

人を求むる側

平町職業紹介所が開設以來受付た求職及び求人左の

病床の老の身を巡る

人の情けの様々な姿

無情な雇主に見捨てられて 水を飲みつつ露命を繼ぐ

平町字研町土工渡邊竹次郎(六〇)は同五丁目土木請負業

男の手

一つにて殘されたる三人の子供達の世話も果し兼ね自分の手許には次男吉郎(〇)を殘し長男一(二)は埼玉縣の活版所にまた長女カツ(六)は安達郡の妻の實家に預けて置いた



家庭欄

型紙の利用法

外國雜誌や日本の婦人雜誌などにも、近頃はよく型紙が添へてまゐります、その型紙通りに仕立てればよい

- ▲求職の部、事務員、技工、労働者、女中、官廳事務員
- ▲求人部、保險募集員、呉服店員、炭礦夫、書籍外交員、コック見習、女給、出前配達、小商店員、理髮徒弟、旅館番頭、風呂番、名刺注文取り、染物徒弟

救濟を施さんと青年團員其他が奔走し同區内から寄附を集め大島福太郎氏の五圓を始め日毎に集る見舞の金を漸く其日其日の細い煙りを立て、居るが一方平第一

採炭中惨死

落磐の爲め

石城郡赤井村大字畑子澤居住岩瀬郡濱田村生れ品川炭礦坑夫加藤甚之丞(四八)は十九日午後二時頃礦口狹隘なる爲め一名にて採炭中落盤に押し壞ぶされて惨死した

個人消息

▼草野順平氏(縣會議員)宮城縣鎌先温泉から本社に寄せられた通信左記の通り當地東北本線白石驛を距る二里餘の山奥、遊蕩氣分を離れたる療養には正に好適地に候、四五日滞在の上歸國の豫定なりしも傷口に未だ癒らぬ箇所あり三四日滞在申候

平實業リーグ戦

田町大勝す

十三對三にて

を放ちうちにして練習したが、わが國では明治二十二年ごろから雀を澤山に放つて射撃の練習をしたものだからその後はクレイ(かはらけ)を機械で空にとばして練習し近頃は米國風の装置が流行してゐる、うち初めはじぎやばんでかまはあまりに大味だか、少し巧者になるとやらぬ、クレイで成績良好でも實際に鳥に向かうとなかなかうてぬもので、そこにはいひ現せないコツがあるものだ

平町人事

死亡

△大工町 石澤光子(一七)
△葛城郡 當時相馬郡小高町林與(八七)
△正月町 村山文夫(二九)
△仲岡 阿部トキ(二三)

少年庭球戦

優勝は好間校
同業警報新聞主催少年庭球大會は十九日午前九時から平商コートに於て舉行した結果優勝旗は好間校の手に歸した

大群が襲來

四倉濱の活況

石城郡四倉濱にては五六日

前から鯉船餌料の鰯を採るべく作業中大網の漁群襲來し四倉沖合約半海里に於て各船何れも連日の大漁に同濱はにわかに活氣ついたので

ツコの獵狩

三年の勞苦
五百發の弾丸を射撃すれば素人でもどうにか見當がつき出すが鳥の射てるまでにははよご器用な人で一週間の稽古自信の出来るまでには三年の勞苦が出る、しかし今の人はよほど運動に理解があるから比較的はやい

外國では 最初は鳩